

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	スポーツとコミュニケーション		
英文授業科目名	Communication in Sport		
開講年度	2005年度	開講年次	3、4年次
開講学期	6、8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	深澤 浩洋		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>スポーツは、人間による活動ゆえコミュニケーションという契機を潜在的にはらんでいます。言葉の通じない者同士でも共にゲームを楽しむことができたり、プレイヤー同士や彼らとファンとの間に連帯感が生まれたり、スポーツにはコミュニケーションを考える素材が豊富にあります。コミュニケーションを「関係」と捉えてみると、教育として行う体育にも、私自身と身体との間にも、コミュニケーションを認めることができるでしょう。しかしながら、いわゆる「スポーツ(科)学」において、これが主題的に取り上げられることは、これまであまりなかったといえます。関連領域が多岐に渡っていて一括りにはできないことも影響しているためか、「スポーツ」、「コミュニケーション」をタイトルに含む著書(特に日本語)が極めて少ないことがそれを物語っています。</p> <p>そこでこの授業では、外国語の文献の講読を通して、スポーツにみられるコミュニケーションのあり様の一端に触れてみたいと思います。また、そこから一般社会におけるコミュニケーションとの共通性や相違を考え、コミュニケーションに対する認識を深めることを目指します。</p> <p>長文の構造を理解した上で内容を把握することができること、そして、理解した内容について、自分自身の経験、関心などを結びつけ、自分なりの解釈を導くことを目指します。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>
--

電気通信大学 平成17年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし

【教科書等】

Wenner, L.A. (ed)(1998) Media Sport, Routledge

コピーしたものを配布します。

【授業内容とその進め方】

受講者20名以内で実施します。今年度は、スポーツとメディア（テレビ）を題材に論じている上記のテキストを一章ずつ分担し、その内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを行っていただきます。担当箇所の内容をまとめたハンドアウト（A4で2枚）を作成し、それに基づく説明を求めます。

第1回 イン트로ダクション、プレゼンテーションの説明

第2-4回 Part I: The Mediasport Playing Field

プレゼンテーション&ディスカッション

第5-7回 Part II: Mediasport Institution

プレゼンテーション&ディスカッション

第8-10回 Part III: Mediasport Text

プレゼンテーション&ディスカッション

第11-13回 Part IV : Mediasport Audiences

プレゼンテーション&ディスカッション

第14回 関連領域についての概説

第15回 まとめとディスカッション、レポート課題提示

電気通信大学 平成17年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席及び授業における発言(30%)とレポート(70%)で評価します。4回以上欠席した方は、評価の対象とはしません。レポートでは、オリジナルな視点から書かれているか(自分の経験などに基づいて自分の言葉で書かれているか)、論理的で説得力があるか、などに重点をおきます。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

初回の授業には必ず出席してください。
担当方法についての説明などを行います。
スポーツをするのが好きな人、スポーツを観るのが好きな人、歓迎します。また、スポーツが考える対象でもあることに気づいてもらえることを期待しています。
さらに、まとまった英文を読みこなそうという強い意気込みも期待します。

【その他】